平成２２年度研究成果報告書≪教育課程≫

学校名（ふりがな）	野洲市立（やす） 三上（みかみ）小学校

校 長 名：藤池　聡

所 在 地：滋賀県野洲市三上111

電話番号： 077-587-0049

新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法等の工夫改善に関する研究	
研究対象教科等	音楽

《研究主題》

音楽の楽しさ“再”発見!!
～〔共通事項〕との関連を図った目標設定と的確な指導を通して～

【研究の要点】

1．新学習指導要領の趣旨を生かしながら，年間指導計画の見直しを行い，〔共通事項〕と関連を図った指導目標例や評価規準例を示した。これにより，毎時及び題材ごとの指導のねらいが焦点化された。また6年間を見通した題材の関連性も明らかにできた。

2．授業ごとに，〔共通事項〕をふまえた目標提示，様々な支援，振り返りシートの活用の3点を重視して実践研究を進めた。これにより，教師の授業力の向上が図れ，結果，子どもの学びの質が高まった。

3．上記1・2の相乗効果により，子どもの音楽活動の基礎的な力がスパイラルに高まりつつある。

Ⅰ　研究指定校の概要

１　学校・地域の特色及び実態

・豊かな自然に囲まれた小規模校である。
・子どもは，素直であるが，表現力に乏しい。
・音楽の楽しさを実感した経験が少なく，苦手意識を持つ子どもが多い。

２　学校の概要（平成 22 年 4 月 5 日現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
学級数	1	2	2	1	2	2	3	13
児童数	32	42	36	30	41	42	14	237

教員数　18　名

Ⅱ　研究の内容及び成果等

１　研究主題等

(1) 研究主題

音楽の楽しさ“再”発見!!
～〔共通事項〕との関連を図った目標設定と的確な指導を通して～

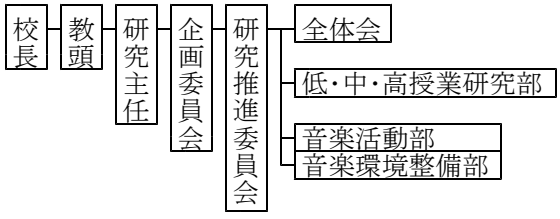
(2) 研究主題設定の理由

本校では，子どもが音楽の楽しさを実感できる学校づくりを目指して，平成 19 年度から音楽を中心に据えた研究に取り組み，校内放送や音楽にかかわる掲示物の見直し，音楽集会等を通して，子どもにとって音楽が身近なものになったという手応えは感じられた。

しかし，音楽科の授業の中では，子ども一人一人が音楽の楽しさを十分味わっていないということが，子どもを対象に実施したアンケート調査から分かった。

そこで，音楽を形づくっている要素が生み出す音楽の面白さや美しさを子どもに気付かせ，感じ取らせ，音楽のよさや楽しさを再発見させるとともに，６年間の連続した発達に応じた指導をすることにより，子どもの音楽活動の基礎的な力をスパイラルに高めることをねらい，本研究主題を設定した。

(3) 取組体制



(4) ２年間の主な取組

平成21年度	校内研究組織確立 子ども対象アンケート実施（4 月，7 月，12 月の 3 回） 公開授業及び授業研究会（全学級担任） 研修会（音楽実技・授業案検討・新学習指導要領） 年間指導計画の作成と検討
平成22年度	校内研究組織改編 再検討（年間指導計画・評価規準・指導案様式等） 子ども対象アンケート実施（4 月，7 月，11 月の 3 回） 公開授業及び授業研究会（全学級担任） 教育課程（音楽科）研究発表協議会の開催 研究のまとめ及び次年度以降の研究についての検討

2　研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究の重点

①年間指導計画の再編

②〔共通事項〕との関連を図った指導の工夫

(2) 具体的な取組

以下に研究の重点①②にかかわる具体的な取組を第２学年２学期題材「リズムにのってあそぼう」の事例の抜粋とともに示す。

①年間指導計画の再編について

題材全体で中心的に扱う〔共通事項〕を明確にし，バランス良く年間計画に位置付けるべく，以下の２点に重点を置き，年間指導計画を再編した。

⑦各題材で押さえる〔共通事項〕の精査

昨年度，年間指導計画を見直し，教科書の全教材を分析し，各題材のねらいや教材曲の特徴を考慮して，中心的に扱う〔共通事項〕を精査して明示した。

本年度は，これを活用して授業を進める中で，〔共通事項〕を各題材に適切に配置しているかを検証し修正した。(資料①)

例えば，２年生「リズムにのってあそぼう」では，題材全体で中心的に扱う〔共通事項〕を「拍の流れ」「リズム」に設定して●印で示し，「山のポルカ」では「問いと答え」についても簡単に触れるように○印で示した。これにより，

・題材全体としては，２拍子と３拍子の「拍の流れ」，２拍子の「リズム」を中心として指導する
・「山のポルカ」では「問いと答え」についても簡単に触れ，広がりを持たせた指導をすることにより，感じ取ったことをもとにした表現の工夫を深める

というように，題材のねらいを明確にした指導がしやすくなった。

（資料①　年間指導計画　第２学年「リズムにのってあそぼう」一部抜粋）

滋賀県　野洲市立三上小学校

2010年度　音楽科　第2学年　年間指導計画

♪学年目標

楽し(音楽にかかわり音楽に対する興味・関心をもち音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。

基礎的な表現の能力を育て,音楽表現の楽しさに気付くようにする。

様々な音楽に親しむようにし,基礎的な鑑賞の能力を育て,音楽を味わって聴くようにする。

教材と新学習指導要領との関連　●…主な関連　○…付随的な関連

月	題材名	題材のねらい	教材名 ◎…鑑賞教材 ◆…共通教材	時数(合計)	A 表現 ①歌唱 ア 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりすること。	A 表現 ①歌唱 イ もって歌うこと。	A 表現 ①歌唱 ウ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いを	A 表現 ①歌唱 エ 自分の歌声及び発音に気を付けて歌うこと。	A 表現 ②器楽 ア 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。	A 表現 ②器楽 イ 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること。	A 表現 ②器楽 ウ 楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること。	A 表現 ②器楽 エ 身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。	A 表現 ②器楽 ア 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。	A 表現 ②器楽 ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。	A 表現 ②器楽 イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。	B 鑑賞 ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。	B 鑑賞 イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。	B 鑑賞 ウ 楽曲の楽しさに気付いて聴くこと。	共通事項〕ア 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを音楽で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさを感じ取ること。	共通事項〕イ 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)～(イ)及び～(イ)～(ウ)の働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。 (ア) フレーズ	(ア) 拍の流れ	(ア) 強弱	(ア) 旋律	(ア) 速度	(ア) リズム	(ア) 音色	(イ) 問いと答え	(イ) 反復	音楽活動を通して理
9	リズムにのってあそぼう	リズム譜に親しみ,拍の流れに乗って,簡単なリズムを表現することができるようにする。 拍子やリズムなどの音楽の特徴を感じ取って,身体表現をしたり演奏の仕方を工夫したりすることができるようにする。	◎ トルコ こうしんきょく	8												●										5・7・10・11	・どっちがびっくり!?　音楽に合う方をえらぼう! 拍子の違いを感じて,歩いたり,踊ったりする。) ・「トルコこうしんきょく」の音楽に合わせて歩こう! (2拍子の流れを感じ取って,行進しながら聴く。) ・「メヌエット」の音楽に合わせておどろう! (3拍子の流れを感じ取って,身体表現しながら聴く。)
			／メヌエット																									
			いるかは ざんぶらこ					○	●		○	○																・音楽に合わせて歌おう!(3拍子の流れに乗って歌う。) ・「いるかはざんぶらこ」の歌にリズムに合わせて楽しもう! (3拍子の流れを感じ取って,バッテリーリズムを演奏する。)
			山の ポルカ		○			○	●		○	○													○			・「山のポルカ」に友だちとリズムを合わせて楽しもう! (「山のポルカ」の歌に合わせて,友だちとバッテリーリズムを楽しむ。) ・トレさで歌って,演奏しよう!　旋律の階名模唱や暗唱をする。) ・先生や友だちと合わせてえんそうしよう!　旋律とリズムフレーズを合わせて演奏する。)
10			リズムあそび						●					●											○			・お気に入りのお祭りリズムを作って,みんなで 時まつり に合わせて楽しもう!他 (リズムカードの組み合わせを試したり,音を工夫したりして作ったリズムフレーズを 時まつり と合わせて楽しむ。)

『共通事項〕イ 音符,休符,記号や音楽にかかわる用語』の欄の記載について

※スペースの都合上,左表中『共通事項〕イ 音符,休符,記号や音楽にかかわる用語』』を下表中の番号で表示。

番号		番号		番号		番号		番号		番号		番号	
1		8		15		22		29		34			
2		9		16		23		30	(反復記号)	35	(アクセント)		
3		10		17		24		31	(強弱記号)	36	(スタッカート)		
4		11		18		25		32	(タイ)	37	♩=96		
5		12		19		26		33	(スラー)				
6		13		20		27							
7		14	五線と加線	21		28							

児童に提示する目標の例

※各教材に関わる目標が3つ以上ある場合は提示順に特に中心的な目標や共通事項に関わる目標を記載。括弧内には 教師のねらいを記載。

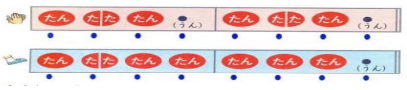
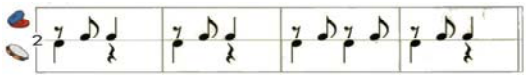
9	リズムにのってあそぼう	リズム譜に親しみ,拍の流れに乗って,簡単なリズムを表現することができるようにする。 拍子やリズムなどの音楽の特徴を感じ取って,身体表現をしたり演奏の仕方を工夫したりすることができるようにする。	◎ トルコ こうしんきょく	8												●										5・7・10・11	拍子やリズムに関心を持ち,拍の流れとそのまとまりを感じ取って,体を動かしたり演奏をしたりしている。	拍子の特徴を感じ取って,取り方や演奏の仕方を工夫している。	リズム譜に親しみ,拍の流れを感じ取って,体や打楽器で,リズムを奏する。	楽曲の拍子の違いを感じ取る。
			／メヌエット																									
			いるかは ざんぶらこ					○	●		○	○																	
			山の ポルカ		○			○	●		○	○													○				
10			リズムあそび						●					●											○				

㋑６年間を見通した題材の関連性の明確化

これまで，自学年の題材が，前学年からどのようにつながり，また次学年にどのようにつながるのかについて，十分把握しきれないまま，日々の実践を重ねてきていた。そして，そのために，子どもたちの学びが学年単位の途切れたものとなってしまっていた。

そこで，各題材における学年を超えた縦の系統性を踏まえて指導計画を立てることができるよう，題材の系統性を調べ直し，年間指導計画と合わせて日々の実践に活かしてきた。（資料②）

（資料② 前学年との関連　６年間を見通した題材の関連性の明確化にかかわって）

題材名	１年「リズムにのってあそぼう」	２年「リズムにのってあそぼう」
題材目標	・歌ったり，身体表現をしたりして，リズムの違いを感じ取ることができるようにする。 ・拍の流れにのって，簡単なリズムを表現することができるようにする。	・２拍子と３拍子の音楽の違いを感じ取りながら，聴いたり，表現したりする。 ・リズム譜に親しみ，拍の流れを感じ取って，簡単なリズムを表現する。 ・拍の流れを感じ取って，主な旋律とリズム伴奏を合わせる。
教材	・しろくまのジェンカ ・てをたたきましょう ・ぶんぶんぶん ・ことばあそび	・トルコ行進曲/メヌエット他 ・いるかはざんぶらこ/山のポルカ ・リズムあそび ・村まつり
〔共通事項〕	**ア(ア)リズム・拍の流れ** たん(四分音符)・たた(八分音符) うん(四分休符)	**ア(ア)リズム・拍の流れ** イ 四分音符・四分休符・八分音符・八分休符
出合わせるリズム表現やリズム譜の例	 **「てをたたきましょう」リズム絵譜）**	 **（「山のポルカ」リズム譜）**

※表中のリズム絵譜及びリズム譜は，全て教育芸術社「小学生のおんがく1・2」より転載

②〔共通事項〕との関連を図った指導の工夫

毎時の授業では，以下㋐～㋓の４点に重点を置き，授業改善を図った。

㋐〔共通事項〕との関連を図った明確な目標提示

以下の事項を意識して，毎時の目標の設定及び提示をしてきた。

Ⓐ簡潔で分かりやすい表現にする。

Ⓑ子どもの「やってみたい!!」を引き出せる学習の流れや支援の中で提示する。

以下にⒷの事例を示す。

提 示 目 標：資料①参照

〔共通事項〕：ア（ア）リズム，拍の流れ

子どもたちが，バッテリー・リズムに出合うのは本題材が初めてである。また，音符を使ったリズム譜に出合うのも，本題材が初めてである。

そこで出合いの場面では，リズム譜は掲示せず，校長と教頭が「山のポルカ」に合わせてバッテリーリズム演奏し，それを録音したＣＤを聴かせた。そしてＣＤに合わせて，それぞれのリズムフレーズを手拍子や膝打ちで練習した上で，「今度は，校長先生と教頭先生みたいに，友だちとタンブリンとカスタネットのリズムを合わせてみよう!!」と投げかけ，本時の目標を提示した。

その後の活動では，「校長先生と教頭先生みたいにやってみたい」という気持ちから，どの子も前向きに学習を進めることができた。また，「校長先生と教頭先生みたいに…」と投げかけたことで，互いのリズムフレーズを意識的に聴きながらリズムを打つ姿につながった。

㋑音楽の「楽しさ」“再”発見につながる取組

提示した目標に近づくため，本年度は以下の４点に重点を置いて取り組んだ。

Ⓐ視覚的な支援

Ⓑ系統性を考慮した題材構成

Ⓒ６年間のシームレスな学びを視野に入れた支援

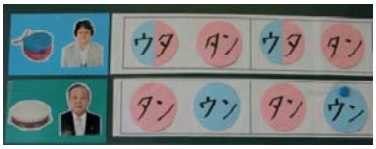
以下に読譜を中心としたⒸにⒶを併せて取り組んだ事例を示す。

〔共通事項〕：八分音符・八分休符他

無理なくリズム譜に親しむため，以下の流れで学習を進めた。

【初めてリズム譜に出合う】

始めはリズム譜を掲示せず，リズムフレーズを聴奏後，リズム絵譜（資料③）を掲示し，それらを手がかりにリズム表現を楽しむことを柱に学習を進めた。その上で，絵譜に近いリズム譜（資料④）に出合わせたところ，比較的無理なくリズム譜に親しむことができた。



（資料③ リズム絵譜一部抜粋）

絵譜を裏返すと…

（資料④ リズム譜一部抜粋）

【読譜する力を確かなものにする】

同題材にて，音楽づくりにも取り組んだ。ここでは，６種のリズムカード（資料⑤）から２つを組み合わせてリズムフレーズをつくった。読譜が難しい子どもへの支援として，リズム絵譜も掲示した。自分のお気に入りのリズムフレーズができるまで，何度もカードを組み替え，打って試す活動に浸る中で，楽しみながらリズム譜に親しむことができた。

（資料⑤ リズムカードの一例）

㋒次時の学びにつながる振り返り方法の改善

低学年部では，これまでハンドサインによって振り返りを行ってきたが，自分の思いだけでなく，他の子どもに左右されていることも多くみられた。そこで，２学期からは，振り返りカードを活用して学習を振り返り，それを踏まえて，教師が次時の学習計画を練り直すようにしてきた。また中・高学年部では，毎時，自己評価と発表をさせ，それらをまとめる中で，次時に学びたいことを子どもたちから出させるようにしてきた。（本実践事例の子どもによる振り返りカードの記述の抜粋は資料⑦に記載）

㋓題材ごとに押さえる〔共通事項〕の明確化とＰＤＣＡを生かした指導

㋐㋑㋒により，１教材または１授業で，中心的に扱う〔共通事項〕をどのような支援のもとで押さえるのかを十分練った上で，実践を重ねることはできた。しかし，公開する１授業に重きが置かれ，題材全体を見通した授業研究の推進は不十分であった。そこで，本年度２学期より，指導案を，その題材の全時間について，

P …〔共通事項〕を押さえるための計画

D …指導の実際

C …ねらい達成についての毎時の評価

A …次時の計画の修正

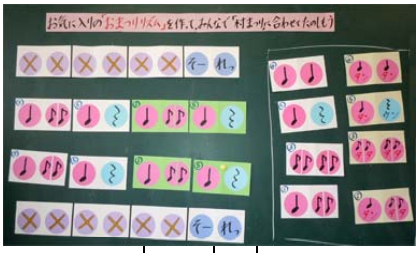
を明記する形式とした。（資料⑥⑦）

このことにより，題材全体を見通した上で，より子どもの実態に即した指導ができるようになった。

（資料⑥ 指導と評価の計画　第３次 指導案からの抜粋）

次	ねらい	教材	時	主な学習活動	・教師の支援 ☆評価方法【具体の評価規準】	共通事項
3	リズムカードの組み合わせ方を工夫し，それを表現することで，リズム譜に親しむ。	リズムあそび	⑨	ペアで2拍子のリズム・パターンの組み合わせを工夫し，お祭りリズムをつくって演奏する。	・リズムカードを準備し，組み合わせをいろいろ試しながら，何度もカードを見てリズム打ちをする活動に浸る中で，自然とリズム譜に親しめるようにする。 ・自分のリズムをうまく打てない子どもには，リズムを一緒に唱えたり，リズム打ちをしたりする。 **☆活動の観察や演奏の聴取【イ②】【ウ①】**	リズム 四分音符・四分休符 八分音符・八分休符
			⑩	自分と友だちのお祭りリズムをつなぎ，グループのお祭りリズムをつくって，演奏する。	・音楽全体の構成（子ども同士のリズムフレーズのつなぎ目に「わっしょい」等のかけ声を入れる等）が分かるよう，図にして掲示する。 ・拍の流れを感じ取って演奏できるよう，指導者が鐘や締太鼓等で拍打ちをする。 **☆活動の観察や演奏の聴取【イ②】【ウ②】**	

（資料⑦ 毎時の評価と子どもの振り返りを踏まえての指導の実際　第３次 指導案からの抜粋）

次	ねらい	教材	時	主な学習活動	・教師の支援	振り返り（○教師　●子どもの振り返りカードから）
3	リズムカードの組み合わせ方を工夫し，それを表現することで，リズム譜に親しむ。	リズムあそび	⑧	「村まつり」を歌ったり，太鼓の部分に手拍子等を合わせたりして楽しむ。	・祭りの楽しい雰囲気を十分想起させてから，「村祭り」を聴かせるようにする。	○祭りで聴いたことがある音として，子どもたちからは以下の事柄が挙がってきた。 ・花火（ヒュー） ・笛（ピー） ・鐘（カンカン） ・たいこ（ドンドン） ・人の声（わいわい・歌声） ・おみこし（わっしょい） ○歌詞の「ドン」の部分だけでなく，休符の部分にも手拍子を入れている子どももいた。 **●「村まつり」とたいこを合わせるのが楽しかったです。**
			⑨	かけ声と即興的なリズム奏をつなげて楽しむ。	・子どもが演奏する時には，即興的なリズムを楽しめるよう，打つリズムを限定しない。	○拍の流れに乗り切れないために，リズムフレーズを演奏することに戸惑っている子どもも少なくなかった。 ○みんなの前で発表する時に，同じリズムフレーズを２回繰り返して打たせたが，即興的につくったリズム・フレーズなので，２回目に打つ時に忘れてしまい，うまく打てない子どももいた。 **●おまつりのリズムをするのが楽しかったです。** **●友だちのおまつりのリズムをまねっこするのが，楽しかったです。** **●前でたいこをするのがむずかしかったです。**
			⑩	組み合わせを試したり，音を工夫したりしてつくったリズムフレーズを「村まつり」の歌とつなげて楽しむ。	・リズムカードを準備し，組み合わせをいろいろ試しながら，何度もリズム打ちする活動に浸る中で，自然とリズム譜に親しめるようにする。 ・自分のリズムがうまく打てない子どもには，リズムを一緒に唱えたり，リズム	○計画当初は６種計１２枚のリズムカードを子どもたちに配付する予定であったが，前時にカードを見せずに，６種のカードのリズムを模奏させた時，内２種が難しく，思うように打てない子どもが多くいた。そこで，本時は，組み合わせて試す活動に浸らせるため，６種の内，比較的無理なく打てる４種を選んで，子どもたちに配付し，活動させた。このことにより，どの子も学習の終わりには，自分のつくったリズムフレーズを無理なく打つことができ，「できた」「楽しかった」という達成感・成就感を持って学習を終えることができた。

				打ちをしたりする。	○読譜がまだ難しい子どもへの支援として，黒板にリズムカードのリズム譜とともに，絵譜に近いものを一緒に掲示したが，リズム譜を自分で読み取って，演奏するカは本時では十分つけきることができなかった。 **●たいこの紙（リズムカードの意）を見てやるのがむずかしかったです。**
			⑪	各自がつくったお祭りリズムをつないだり，重ねたりして，グループのお祭りリズムをつくり，「村祭り」とつなげて楽しむ。	・音楽全体の構成（子ども同士のリズムフレーズのつなぎ目に「わっしょい」等のかけ声を入れる等）が分かるよう，図にして掲示する。 ・拍の流れを感じ取って演奏できるよう，指導者が鐘や締太鼓等で拍打ちをする。	○リズムフレーズのつなぎ方を掲示し，十分確認したことで，グループ活動をスムーズに進めることができた。 ○それぞれのリズムフレーズをどの順番で演奏するのかを相談した時には，いろいろな順番を試した上で，「○○さんのリズムが最後に来た方がかっこいい」等，順番にこだわって，決めていた。 **●よこをたたいて，音を変えるのがむずかしかったです。** **●「ドン」（皮の部分を打つの意）の音を「カン」（枠打ちの意）にしたら，とっても変わるのが分かりました。** **●「カン」を入れたら，まつりっぽくなりました。** **●グループでやったのが，むずかしかったけど，楽しかったです。**

※スペースの都合上，ここには第３次のみ，掲載した。

※実際の指導案では，上記の表中に，評価規準と評価の方法を記載しているが，同じくスペースの都合上，省略した。

３　研究の成果と課題

２年間の研究を通して，次のような成果と課題が明らかになった。

(1) 成果

○題材全体で中心的に扱う〔共通事項〕を絞り，年間計画を再編したことにより，全学年の全題材において，ねらいを明確にした指導ができるようになった。

○題材の系統性を一覧に示したことで，子どもが自学年でどのような学びをするのか，それが次学年にどのようにつながるのかを把握して，題材計画を練ることができた。その結果，子どもの学びが学年単位で終わらず，連続したものとなった。

○題材の全時間について，〔共通事項〕を押さえるための計画(P)，指導の実際(D)，ねらい達成についての毎時の評価(C)とそれを踏まえての次時の計画の修正(A)をしたことにより，子どもの実態に即した指導ができた。

○〔共通事項〕との関連を図った明確な目標の提示により，子どもはその授業で何をどのように学ぶかがつかみやすくなり，その結果，音楽を形づくっている要素から，よさや楽しさを見付ける子どもが増えた。

○学習の積み上げを確実なものにするために，振り返りを大事にしてきた。毎時，目標とする姿に，支援によってどれだけ近付くことができたのか，振り返りカードやビデオ記録などによって明確にし，次時の授業を構築することで，学びが確実なものとなった。

(2) 課題（今後の方向性を踏まえて）

○新しい評価観点に基づく評価規準の作成を今年度中に行う。

○本研究の成果を生かすための次年度以降の取組の在り方を検討し，引き続き授業改善を図る。

平成２２年度研究成果報告書≪教育課程≫

ふりがな	ひろさきだいがくきょういくがくぶふぞくしょうがっこう
学校名	弘前大学 教育学部附属 小学校

校 長 名：蝦名　敦子

所 在 地：青森県弘前市学園町１－１

電話番号：0172-32-7202

新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法等の工夫改善に関する研究	
研究対象教科等	小学校（音楽科）

《研究主題》

豊かな表現力を育む音楽科教育
~思いを音で表し，高め合っていく子ども~

【研究の要点】

１．基礎的・基本的な知識・技能の習得

『METHOD』[*1]等を活用することによって，表現に必要な基礎的・基本的な知識・技能が身に付き，子どもたちは思いや意図をもって，表現活動に取り組めるようになってきた。

２．聴き取り感じ取る力，表現を工夫する力の育成

対照的な楽曲を比較して鑑賞させることによって，音色や強弱などの音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きを感じ取る力が育ち，その力が支えとなって，表現を工夫する学習が充実した。また〔共通事項〕の内容を活用して伝え合うことができるようになってきた。

３．創造性を発揮して音楽をつくる力の育成

主に音楽づくりを通して，創造性を発揮して音楽をつくる力を育むことができた。

Ⅰ　研究指定校の概要

１　学校・地域の特色及び実態

・附属学校として先進的な研究を実践検証し，地域に提案する使命を帯びている。

・新学習指導要領を具現化するために，改訂の理念に沿った実践を目指している。

２　学校の概要（平成22年4月5日現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	複式学級	計
学級数	3	3	3	3	3	3	3	21
児童数	102	89	93	100	111	85	48	628

教員数　34　　名

Ⅱ　研究の内容及び成果等

１　研究主題等

(1) 研究主題

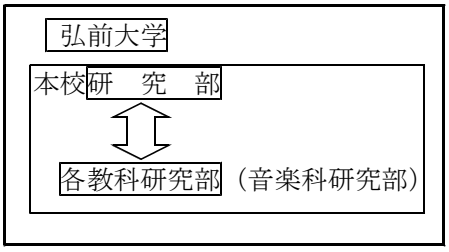
豊かな表現力を育む音楽科教育
~思いを音で表し，高め合っていく子ども~

(2) 研究主題設定の理由

本校の子どもたちの多くは，歌唱，器楽，音楽づくりの表現活動に対して意欲的である。しかし，一通り表現することができれば満足し，表現がより豊かになるように工夫したり，表現への思いをもって互いに高め合ったりする点では課題が見られた。その原因は，音楽のよさを感じ取り，表現したいと思っても，基礎的・基本的な知識・技能が十分に身に付いていなかったり，表現への自分の思いや意図をもたせる教師側の手立てが適切でなかったりしたことにあると考えられた。

子どもたちは，表現に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付け，それらを活用しながら表現活動を深めることによって，満足感や達成感を味わうことができるのではないか。また，新学習指導要領の趣旨に沿って思いや意図をもって音や音楽を表現し，互いに高め合っていくことによって，より豊かな表現力を育むことができるのではないか。こうした考えにより，本主題を設定した。

(3) 取組体制



(4) ２年間の主な取組

平成21年度	基礎的・基本的な知識・技能を『METHOD』等を用いて継続的に習得させる学習活動を設定した。さらに，思いや意図をもって表現する力を育むために，主に音楽づくりを通しての実践を積み重ねた。これらの実践は公開研究会を通して提案し，研究紀要としてまとめて報告した。

平成22年度	前年度の取組を継続するとともに，子どもたちが思いや意図をもって表現し，互いに高め合っていくためにはどのような方法が適切かについて授業実践を通し，検証した。これらの実践は公開研究会で提案した。

2　研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究の重点

①基礎的・基本的な知識・技能の習得・活用

②感じ取る力を支えとした学習活動

③創造性を発揮して音楽をつくる力の育成

(2) 具体的な取組

①基礎的・基本的な知識・技能の習得・活用

『METHOD』を取り入れた学習活動の実践例

・奏法に関する事項（打楽器・鍵盤楽器・リコーダー等）

・リズムや音の聴取に関する事項（拍子・音程等）

・音楽づくりのために必要な事項（リズムリレー・リズムカードの活用・黒鍵による８小節の即興コラボレーション・打楽器による４小節の即興等）

音楽づくりのために『METHOD』を取り入れた事例～第５学年での実践より～

1)題材名：「思いを音で」

2)教材名：

『銀河』(学級のテーマ)

『故郷の人々』(Foster作曲)

『道化師のギャロップ』(Kabalevsky作曲)

3)題材の目標

・モチーフの反復・変化など音楽の仕組みを生かして見通しをもって音楽をつくる。

・概念図をもとに，表現を工夫する。

4)題材の指導計画(全10時間計画)

○『故郷の人々』『道化師のギャロップ』を鑑賞し，楽曲を特徴付けている音楽の仕組みを発見する。

○『銀河』概念図と２小節のモチーフをつくる。

○鑑賞した２曲を参考にして２部形式の音楽をつくる。

○思いや意図をもって表現を工夫する。

・調を変える。

・拍子を変える。

○音楽づくりを振り返る。

5)本時の展開

ア　『METHOD』の学習

・『METHOD』による３度の音程から順次オクターブまでの聴音(4分,8分,16分音符のリズムで構成)を行った。

・拍の流れに乗る練習をした。

・縦の重なりを聴き取る活動をした。

イ　『銀河』の表現を豊かにするための表現を工夫

・前回の演奏をＶＴＲで振り返った。

・楽譜に沿って意見を述べ合った。

・音量と速度について提案し合った。

ウ　各パートの確認と表現の工夫（奏法）

・パート毎に構造に沿っての確認した。

〔作品の構造〕

序奏→間奏→提示部→間奏→展開部→間奏→再現部→結尾部

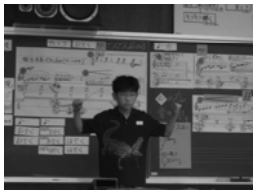
【奏法の吟味】

・互いの思いを述べ合う中で奏法について具体的に提案し合う様子が観察された。ここでイメージの共有化がなされた。

・楽譜への書き込みをした。

エ　演奏の速度を工夫

・指揮者の拍打ちによりいろいろな速度を試し,どの速度がふさわしいかを考えた。



【速度を吟味して】

・指揮者の子どものリーダーシップで，全体で速度を決定した。ここでも曲のイメージに対する思いが述べられた。

・音楽を形づくっている要素に視点を向けた話し合いの中で言語活動の充実が見られた。

・決定した速度で練習した。

オ　通し演奏と振り返り

・楽曲全体を通して演奏した。

・実際の演奏と意図したことをつきあわせて振り返った。

【奏法を習得しようとする子どもたち】

6)考察

子どもたちの様子から，モチーフづくりから音楽表現をつくりあげていったことに対する感動を見取ることができた。

『METHOD』の学習によって，モチーフづくりにおいて，実際の音と楽譜上に記入する音が一致するようになり，子どもたちはつくった旋律を記入しては互いに見せ合い検討していた。跳躍する音については，３度音程まで確実に楽譜と一致していた。『METHOD』の学習が，音楽をつくる学習の支えとなった。

曲想表現のために『METHOD』を取り入れた事例～第５学年での実践より～

1)題材名

「奏法を工夫して表現しよう」

2)教材名『星笛』(北村俊彦作曲)

3)題材の目標

楽曲を特徴付けている音楽を形づくっている要素の働きを感じ取って，奏法を工夫して演奏する。

4)題材の計画

○『星笛』をリコーダーで演奏する。

○奏法を決定し楽譜に記入する。

○曲想を生かした表現のためにはどんな奏法が効果的なのかを吟味し決定する（楽譜に記入)。

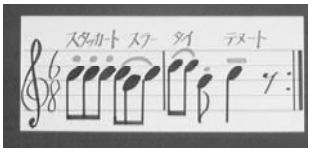
○各パートで，力点をおく奏法のポイントを絞り込む。

○楽曲のどの部分で，どのような奏法が適切かを互いに伝わるように説明し合う。

○担当楽器で表現する。

5)本時の展開

ア　ウォーミングアップ

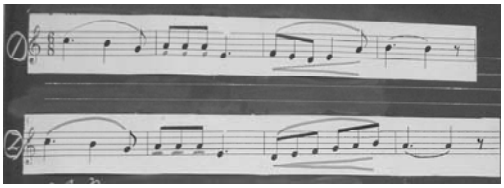
・『METHOD』に取り組んだ（リコーダーでスラー,スタッカート,テヌートの習得)。

・『METHOD』で習得した奏法を既習曲に用いて試した。

【『METHOD』より抜粋】

イ　学習目標と方法の把握

ウ　前時までの学習の想起

エ　スラー，スタッカート，テヌート設定

オ　最初の大楽節を振り返り，２番目の大楽節に奏法を設定する

【前時に奏法を記入した楽譜】

カ　多様な楽器（鍵盤ハーモニカ・電子楽器等）で演奏する

・各パートの中で個々の思いを伝え合い，イメージを共有した。

・どの奏法に力点を置くか絞り込んだ。

・全体に各パートの思いを伝え合った。

キ　まとめる

・共有した思いの表現を目指して全員で合奏した。

ク　振り返る

・奏法を工夫することで曲想を生かした表現を実現できたか，個々に振り返った。

【学習カードの記入と相互評価】

6)考察

『METHOD』でスラー，スタッカート，テヌートを習得したことで，曲想を生かした表現の工夫に自信をもって取り組んでいた。鍵盤楽器よりもリコーダーを用いて奏法を工夫している子どもが多かったのも，奏法を確実に習得したためだと考えられる。こうした自信が支えとなって,表現に対して意欲的になり，その他の楽器でもこの３つの奏法を生かして表現の工夫に取り組んでいた。

②感じ取る力を支えとしての学習活動

第５・６学年複式学級での実践より

1)題材名：「曲の特徴をつかんで」

2)教材名：

『３声のカノンとジーグ』より『カノン』
（Johan Pachelbel作曲）

『剣の舞』
（Aram Ilych Khachaturian作曲）

『ハンガリー舞曲第５番６番』
（Johannes Brahms作曲）

3)題材の目標

音楽を形づくっている要素を手掛かりとして，楽曲の特徴を感じ取り，曲想を生かした表現を工夫し，思いや意図をもって演奏している。

4)題材の指導計画（全８時間計画）

○全員で『剣の舞』と『カノン』を鑑賞し，各教材を特徴付けている要素を比較して教材ごとに要素一覧を作る（２時間)。

○全員で『ハンガリー舞曲』第５番と６番を鑑賞し，同様に要素一覧を作る（１時間)。

○要素一覧の作成を通して把握した『剣の舞』と『カノン』の特徴を生かした表現を工夫して，全員で演奏する（５時間)。

5)本時の展開（7/8)

ア　強弱，速度に視点をあてたウォーミングアップ

・弱音からはじめ，次第に強い音で音階を演奏した。

・曲想を生かした表現に使用する楽器で表現を工夫した。

イ　視点とする要素の確認

・『剣の舞』と『カノン』の音楽を形づくっている要素を比較し，前時までの習得内容を想起した。

ウ　楽器による表現

・全員で『剣の舞』と『カノン』の音楽を形づくっている要素一覧と楽譜を読み，次に旋律の形や記号について確認し，曲にあった表現にするためにはどんな奏法が必要かパートごとに話し合った。

【形を図で視覚的にとらえる】

エ　奏法の選択

・楽器毎にグループで奏法を見直した（マレットを使用する楽器，鍵盤楽器等グループでの見直し)。

・ＶＴＲでの鑑賞を通して具体的に奏法をとらえ個々に活用を試みた。

・マレットのストロークの高さを変化させ，奏法を工夫した。

【 音色を見直す】

・ヘッドホーンで自分の音を聴き音色が曲想に合っているか確かめた。教師も聴き手となった。

・鑑賞しては表現することを繰り返した。

オ　相互評価

・曲の特徴をつかんで表現できたかを評価し合った。

6)考察

子どもたちは学習を進める中で，〔共通事項〕を手掛かりとして音楽を形づくっている要素の働きを感じ取っていた。さらに，表現に生かす工夫をする中で，音楽を形づくっている要素を学習場面で活用するようになっていった。また，学習の前半を終えた頃から，音楽を形づくっている要素についての発言が多くなり，言語活動も充実した。

〔共通事項〕を手掛かりとしたことで，楽曲の特徴を的確に把握する力が定着した。

③創造性を発揮して音楽をつくる力をはぐくむ学習活動

第３学年での実践より

1)題材名「せんりつをつくろう」

2)題材の目標

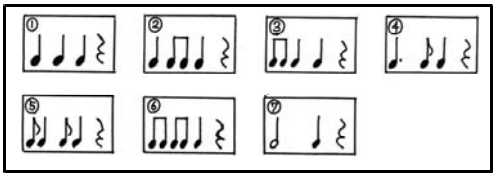
・簡単なルールで旋律をつくる。

・音楽の仕組みを生かしながら,思いや意図をもって旋律をつくる。

3)題材の指導計画（全６時間計画）

○コール・アンド・リスポンス(問答遊び)[*2]をする。

・教師や友達のリズム打ちを聴き取ってリズム打ちリレーや旋律のリレーをした。



【リズムづくりや旋律づくりのヒントにしたリズムカード】

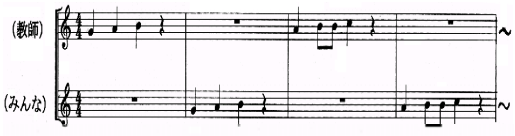
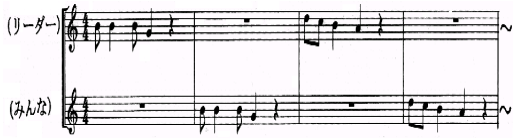
○４拍１小節のリズムをつくってグループでつなげ,ソラシドレの音を使って旋律づくりをする。

○４拍２小節のリズムをつくってグループでつなげ,ソラシドレの音を使って旋律づくりをする。

○３拍１小節のリズムをつくってグループでつなげ,ソラシドレの音を使って旋律づくりをする。

4)本時の展開（4/6）

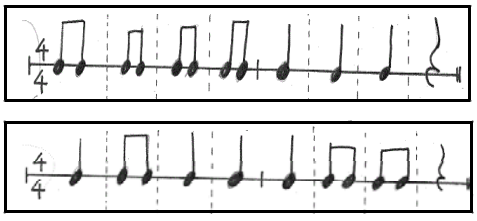
ア　コール・アンド・リスポンス（問答遊び）をする

・教師の旋律を聴いて〔４拍１小節〕

・簡単な旋律をつくってリレー〔４拍１小節〕

【実際に行ったコール・アンド・リスポンスの例】

【全体で丸くなり，互いの表情を見合いながらコール・アンド・リスポンス】

イ　旋律づくりをする

・自分のつくったリズムカード〔４拍２小節〕の中から,好きなリズムを選んだ。



【実際に子どもたちがつくったリズムの例】

・選んだリズムをリズム打ちしたり,聴き合ったりしながらグループでリズムをつなげた。

・つなげたリズムにソラシドレの音を使って旋律をつくった。

・つくった旋律が「続く感じ」や「終わる感じ」になっているか見直しな

がら演奏した。

・互いの演奏を聴き合った。

【実際につくった楽譜】

・本時の学習を振り返った。

5)考察

全体で丸くなり，互いの表情を見合うことによって子どもたちの意欲を高め，聴き取った旋律を模倣して正確に演奏することができた。リズムカードを使ったり，簡単なリズムを少しずつ変化させたりと繰り返し活動していくことによって，子どもたちは自信をもって即興的に旋律をつくったり，模倣しながら演奏したりすることができるようになった。

つくったリズムを記譜したり，ソラシドレの音を音符の下に記入させることによって，子どもたちは思いや意図をもって旋律づくりに取り組むことができた。つくった旋律を聴き合う活動を大切にしてきたが，ペアやグループで向き合わせる等，隊形の工夫をすることによって，音の聴き取り方も違ったのではないかと考える。また，本時で子どもたちのつくった旋律は，音楽の仕組みを生かすというよりも，即興的な演奏に近くなってしまった。子どもたちがより「いいな」「面白いな」と感じ取れるような旋律づくりとなるよう，既習の音楽の仕組みを活用させるとともに，旋律をつくる方法をさらに工夫していきたい。

第４学年での実践より

1)題材名「リズムアンサンブルをつくろう」

2)題材の目標

音楽の仕組みを生かし，音の特徴やリズムの反復，音の重なり等を感じ取りながらリズムアンサンブルをつくる。

3)題材の指導計画(全７時間計画)

○木，金属，皮の材質の打楽器を使った音遊びやコール・アンド・リスポンス(問答遊び)をする。

○リズムづくりをし，つくったリズムをカードに記譜する。

○音色の違いやリズムの重ね方を考えながら，グループでリズムアンサンブルづくりをする。

○つくったリズムアンサンブルを図形楽譜で表す。

○つくったリズムアンサンブルを聴き合う。

4)本時の展開(5/7)

ア　前時の学習を振り返る

・音遊びで見つけた音の紹介をした。

・図形楽譜を見ながら全員でリズム打ちをした。

イ　リズムアンサンブルづくりをする

・音の組み合わせやリズムの組み合わせ方を考えた。

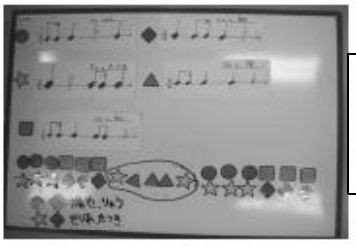
・グループでリズムを重ね合わせながらリズムアンサンブルをつくった。

・始め方と終わり方を考えながらつくった。

・素材の音の違いを生かしながらつくった。

【音色の違いやリズムの重ね方を考えながらつくる】

・つくったリズムアンサンブルを図形楽譜で表した。

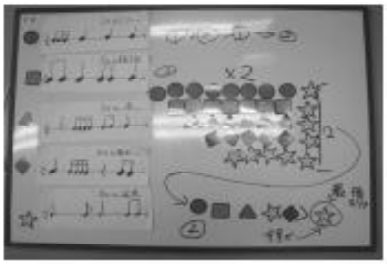


音楽の仕組み

ＡＢＡ

ハンバーガー風

【実際にできた図形楽譜①】



参考楽曲
『ロックトラップ』
階段風

【実際にできた図形楽譜②】

ウ　互いの演奏を聴き合う

・つくったリズムアンサンブルを発表した。

【音の重なりと楽器を目をつぶって聴き合う】

・左記のグループは，木の打楽器だけを使って演奏した。音色やリズムの重ね方を考えながら聴いた。

・つくり方や聴かせ方をどのように工夫したのか，グループごとに確認し合った。

5)考察

木，金属，皮の材質の打楽器の中から楽器を選択させることによって，児童の表現意欲が高まった。また，音色の違いやリズムの重ね方を考えさせながらリズムアンサンブルづくりをさせることによって，音の響きをよく聴くことや互いに音を聴き合うことができた。コール・アンド・リスポンス(問答遊び)をすることによってリズムづくりに生かすことができた。また，リズムづくりや旋律づくりのヒントにしたリズムカードや実際にできた図形楽譜①②を活用することによって，自分たちの表現に思いや意図をもって取り組むことができた。しかし，つくったリズムをカードに記譜して演奏することと楽器を演奏してリズムをつくることでは学習活動が異なる。そこで，今後はより楽器の素材に合ったリズムづくりができるような方法を工夫していきたい。さらに音の響きをよく聴くことや音を聴き合うこと，音色の工夫することを大切にしていきたい。また，児童が意欲をもって取り組む音楽づくりの学習を工夫していきたい。

第４学年での実践より

1)題材名「言葉の響きから声の表現をつくろう」

2)題材の目標

声の重なり合う響きや言葉のリズムを感じ取りながら，声の出し方や重ね方を工夫して声のアンサンブルをつくる。

3)題材の指導計画（全３時間計画）

○色々な声の出し方をする(声の高い低い，長い短い，強い弱い，速い遅い，気持ちをもとにした表し方等)。

○声の出し方や声の重ね方等を工夫して声のアンサンブルをつくる。

○グループごとに声のアンサンブルを発表し合う。

4)本時の展開（2/3)

ア　前時までの学習を振り返る

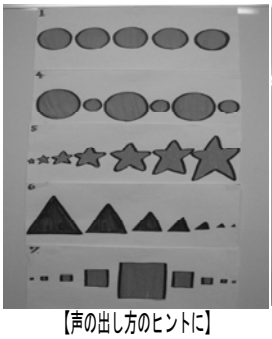
・草野心平の詩『ゆき』を音読した。

ゆき　草野心平

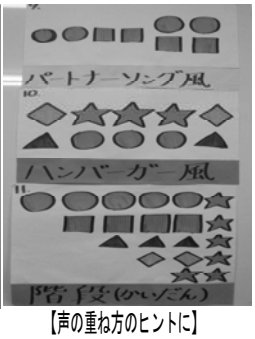
しんしんしんしん
しんしんしんしん
しんしんしんしんゆきふりつもる。
しんしんしんしんゆきふりつもる。
しんしんしんしんゆきふりつもる。
しんしんしんしんゆきふりつもる。
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん

【草野心平の詩を使って】

・図形カード（下記）を使いながら声を出したり，声を重ねたりした。



【声の出し方のヒントに】



【声の重ね方のヒントに】

・詩『ゆき』を使って，グループで声のアンサンブルづくりをした。

「しんしんしんしんゆきふりつもる」と「ゆきふりつもるしんしんしんしん」を同時に重ねる。グレシェンドやデクレシェンドしながら，声を重ねることで，雪が降りつもる様子を表現する。

【子どもたちのメモ①】

「しん」を男子と女子が交互に声を出す。「ゆきふりつもる」を輪唱風に重ねる。声をクレシェンドしながら重ねていくことで，雪の降り積もる様子を表現する。間をしっかりと数え，息を合わせて声を出す。

【子どもたちのメモ②】

「しんしんしんしんしん」と声を出す人数を１人ずつ増やし，声量を段々強くしていく。声を増やしていくことで雪が降り積もる様子を表現する。

【子どもたちのメモ③】

・互いの表現を聴き合い，工夫した点や自分たちが表現したかったことを発表し合った。

5)考察

本題材の音の素材は声や言葉だったが，図形カードを活用することによって，子どもたちは，声の出し方や重ね方を工夫して声のアンサンブルをつくる学習に意欲をもって取り組むことができた。また，これまで習得してきた知識・技能を活用し，思考・判断しながら声のアンサンブルづくりをすることができた。今後は，互いの表現を聴き合い，自分たちの思いを伝えながら，表現がさらに高まっていくような工夫をさせていきたい。子ども一人一人が思いをもち，その思いがグループの中でどのように生かされ,変容していくか，一人一人の見取り方等の評価研究にも取り組んでいきたい。

３ 研究の成果と課題

（１）成果

①『METHOD』等により，表現に必要な基礎的・基本的な知識・技能が身に付き，子どもたちは意欲的に表現するようになった。また，習得した知識・技能を進んで活用しようという意欲が継続し表現力の向上につながった。

②比較鑑賞を通して，音楽を形づくっている要素を聴き取ることにより，それらの働きを感じ取り，表現の工夫につなげることができた。

③音楽づくりを通して，思いや意図をもって表現活動に取り組めるようになってきた。また，自分の思いや意図を同じグループや学級全体に，言葉や図，楽譜等で伝えようとする姿が見られるようになってきた。

（２）課題

『METHOD』等の内容については児童の発達段階や実態に沿って作り直すことが必要であり，継続的に活用していくためには，内容をより厳選し，応用可能な内容にする工夫が必要である。

子どもの表現への思いや意図とその変容を適切に見取るための評価方法の検討を深めていくことが必要である。

---

*1『弘前大学教育学部附属小学校研究紀要』第39号, 2009, p. 50

*2坪能由紀子『一人ひとりの表現を生かす小学校音楽づくり』教育出版, 2004, pp4-5.